資料４

青森県立高等学校将来構想検討会議地区部会（第３回）資料

第１分科会整理案に対する
各地区部会の意見

［青森県立高等学校将来構想検討会議第１分科会（第５回）配布資料］

平成２７年５月

【東青地区部会】

１　地区の目指す学校･学科の在り方について

○　普通科の学力レベルを全国レベルに上げていく必要がある一方で、定時制・通信制も充実させる必要もある。生徒の幅広いニーズに対応した学科構成、教育制度にして欲しい。

２　普通科等について

○　優秀な生徒の実力をさらに伸ばすような授業展開や取組が必要である。

○　現在、単位制を導入しているのは大学等進学希望者の多い高等学校だけだが、生徒の進路希望が多様な高等学校への導入も考えるべきではないか。

３　職業教育を主とする専門学科について

○　地域社会を牽引していくリーダーになるには、大学進学するなどして様々な知識を蓄え、いろいろな経験を積む必要がある。専門学科の高等学校の中にも、大学等へ進学するコースとスペシャリストを養成するコースを設定するなどして、生徒にどちらかを選択してもらうような仕組みを作ってはどうか。

４　総合学科について

○　キャリア教育に徹底して取り組んでいる総合学科は、時代を先取りしている学科と言えるが、中学生や保護者の理解度が低いことが課題の一つではないか。

○　総合学科の取組はとても良いので、もっと増えれば良いと思う。

○　総合学科の高等学校において、教員の数と開設教科・科目を増やすことができれば、選択肢が広がり、生徒にとってより魅力が増すのではないか。

５　定時制・通信制について

○　定時制・通信制の高等学校の生徒は、夢ややりたいことを見つけるのに少し時間がかかるだけで、可能性を持っている。卒業後に立派な社会人になっている姿を見ると、定時制・通信制が果たす役割は非常に大きい。

６　多様な教育制度について

○　中高一貫教育について検討するに当たっては、何を目的とし、何を求めるのかを明確にしておく必要がある。

７　その他

○　意識調査等によると普通科志向が強いようだが、本県の産業動向や高等学校卒業後の進路を考えると、学科の割合は、大きく変える必要はないと思う。

○　普通科系の専門学科を始めとして、学科数が多すぎると選択の際に迷ってしまう。また、入学後は方向転換が難しい。したがって、学科構成はシンプルにした方がよい。

○　地域、ＰＴＡ、大学生等との連携しやすい仕組み作りが必要だと思う。

○　小規模校だからこそできる取組もあり、そのような視点も大切にして欲しい。

○　生徒数が減少している状況の中で、学校の統廃合については地域関係者等ときちんと話し合っていく必要があるのではないか。

【西北地区部会】

１　地区の目指す学校･学科の在り方について

○　明らかに子どもたちが減っている中にあって、全ての高等学校を残すということは、５年後には何とかなっても、その後も減少が続くことを考えれば現実的ではない。どういった対応をしていくべきかについては、検討が必要である。

２　普通科等について

○　西北地区においては、中学校卒業の段階で理数教育に特化して生徒を募集する必要はないのではないか。

○　社会の産業構造とも関わって理系の希望者が増えている。理数科では課題研究などを行うことから、今後の大学入学者選抜制度にも適合しているのではないか。

３　職業教育を主とする専門学科について

○　西北地区は農業従事者が多く、以前から農業教育の大切さが指摘されてきたが、農業自体の在り方が変化してきており、農業高校はこの程度の規模が必要だという先入観を無くして検討する必要があるのではないか。

○　農業高校や工業高校などは、地区に根ざした教育という側面もあるが、青森県全体としてのバランスも考慮する必要があるのではないか。

○　看護師資格を持っていれば、福祉の仕事にも従事できるので、福祉科よりも看護科の設置を考えた方が良いのではないか。

４　総合学科について

○　大学入学者選抜制度が大きく変わり、課題解決型学習が重視されるようになることを考えると、総合学科の取組は合致しているのではないか。

５　定時制・通信制について

○　地域に１つの定時制課程があることは大切である。

６　多様な教育制度について

○　併設型中高一貫教育については、中学生が激減する中にあって、８０人が県立中学校に入学することになると、市町村立中学校への影響が大きい。

７　その他

○　高等学校の配置の検討に当たっては、子どもたちの通学への配慮が必要である。

○　本気で高等学校を残したいと思うのであれば、子どもたちが必ずこの高等学校に入学したいと思うくらい魅力的にするという気持ちで取り組む必要がある。地元の人が自分の子どもを入学させたいと思わない高等学校は続いていかない。

○　高等学校における特別支援学級は全国的にもないようであるが、支援が必要な生徒への対応をお願いしたい。

○　高等学校教育改革に地域の意見をより反映させるためにも、地区部会での議論を含め、早い時期に情報発信していく必要がある。

【中南地区部会】

１　地区の目指す学校･学科の在り方について

○　中南地区は職業教育を主とする専門学科の割合が高いことから、普通科の削減は避けたい。

２　普通科等について

○　弘前高等学校、弘前中央高等学校、弘前南高等学校がそれぞれの特色を生かして欲しい。例えば、弘前高等学校は青森高等学校、八戸高等学校と連携して医師やリーダー等を目指す生徒を育成すること、弘前中央高等学校、弘前南高等学校もそれぞれ特徴を出して、コース制としたり、理数教育等の拠点校とすることなども必要ではないか。

３　職業教育を主とする専門学科について

○　地区の生徒数が減少していく中、専門高校の学科も精査しなければならない。

○　マーケティングや経理も分かり、農業で自営できる人財を育成する必要がある。

○　工業高校においては基礎・基本をしっかりと身に付けさせるとともに、専門分野に関してレベルの高い指導をしており、大学への進学は、専門分野の力を活かした推薦入試による場合が多い。

○　中南地区の商業科は、これまで弘前実業高等学校と黒石商業高等学校が共存し、各校が地域に根ざしてきたが、これからの生徒急減期を考えると難しい面がある。

○　看護科の卒業生は５～６割が県内に就職しており、関東に就職した生徒も、大きな病院で経験を積み、いずれは地元に戻りたいという希望を持っている。北東北の公立高校では唯一の看護師養成施設であり、黒石高等学校看護科の重要性は高い。

４　総合学科について

意見なし

５　定時制・通信制について

○　弘前市内から尾上総合高等学校を選択して進学する生徒もいるが、Ⅲ部（夜間）に通学する場合、帰宅は午後１０時過ぎとなり、女子生徒は特に心配である。また、Ⅰ部・Ⅱ部（午前・午後）は、発達障害等のある生徒の受け皿にもなっていると感じる。

○　弘前工業高等学校定時制課程の生徒数は減っていないが、工業実習の対応が難しい生徒もいることから、普通科とすることを含め、在り方の検討が必要である。

６　多様な教育制度について

○　併設型中高一貫教育に魅力は感じるが、弘前市には既に弘前大学附属中学校があり、市立中学校のレベルや意識の低下につながっているとの指摘もある。

７　その他

○　市町村からの意見聴取は、できるだけ早い時期（中間まとめ前）に機会を設けて欲しい。

【上北地区部会】

１　地区の目指す学校･学科の在り方について

○　大学等進学に向けた学力を身に付けさせ、地元の進学校の学力レベルを上げることで、中学生の地元の学校に対する見方・考え方が変わってくるものと思う。

○　各高等学校とも、「入れる学校」から「入りたい学校」になるよう特色ある教育活動に取り組んでいる。高等学校側のメッセージが中学生に伝われば、中学生はきちんと高等学校を見てくれる。

２　普通科等について

○　三本木高等学校は進学校として、また併設型中高一貫教育校として、学力が伸びていると感じる。

３　職業教育を主とする専門学科について

○　上北地区は学科のバランスがとれており、農業科、工業科、商業科、食物調理科とも必要である。

○　農業、工業などのものづくりは他の学科等と一緒に教育するものではないので、専門高校についてはまとめる必要はない。

○　他県では、１つの学校に農業、工業、商業などの学科がある学校もあるので、うまくまとめると良い教育活動につながることも期待できるのではないか。

○　専門学科で学んだことを社会で生かすためには、いろいろな経験が必要であり、企業の力などを借りて学生の時から社会と繋がっていくという意識で教育活動を行うことが大事である。

４　総合学科について

○　総合学科は中途半端な感じがする。生徒数が減少すれば総合学科としての教育活動は、より厳しい状況となるので、見直しを考える必要があるのではないか。

５　定時制・通信制について

○　様々な事情を抱えている子どもの受け皿となる高等学校は必要であり、三沢市だけでなく、十和田市を含めて、上北地区全体として、そのような環境作りをしてほしい。

６　多様な教育制度について

○　三本木高等学校附属中学校ができて、上北地区の小中学生の学力が飛躍的に向上したと感じている。

７　その他

○　地域感情からすると学校は無くしたくはないが、魅力のある学校が新しくできれば、地域の人も納得するのではないか。

○　複数の学科を一緒にした新しい学校を作り、大規模校と小規模校それぞれの指導のノウハウを共有することで両方のメリットを生かした学校作りが大事である。

○　遠隔地から通う生徒のために、寄宿舎の整備を考えてよいのではないか。

【下北地区部会】

１　地区の目指す学校･学科の在り方について

○　「地域を担う子どもは地域で育てる。」という機運が高まっており、下北地区にも進学に対応した拠点校が必要である。

○　大学に進学するために下北地区を出たとしても、戻ってきて地域を活性化してくれるような人財を育てることが肝要である。

○　子どもたちの「勉強したい。部活動を頑張りたい。たくさん友だちをつくりたい。」という思いを受け止め、地域の核となる高等学校は存続させたい。

２　普通科等について

○　近年、普通科であっても英語科と同じような英語力が求められるようになってきており、英語科の特色化は難しくなってきている。

３　職業教育を主とする専門学科について

○　ものづくりの感性を磨くには１５～１６歳の時期が最適であり、この時期に工業を学ぶ意義は大きく、下北地区にも工業科は必要である。

４　総合学科について

○　望ましい総合学科にするためには、より多くの人、物、予算が必要である。

５　定時制・通信制について

○　定時制の生徒数は増えており、なくてはならないものである。専用の教室を確保するなどして学習環境を整備したり、スクールソーシャルワーカー等を配置したりできないものか。

６　多様な教育制度について

○　生徒の多様なニーズに応える観点から、全日制普通科単位制を拡充できないものか。

○　少子化の中、下北地区での中高一貫教育の実践は難しいのではないか。

７　その他

○　中学生にとっては、高等学校卒業後の姿が見えないという大きな不安がある。小・中学校と連携したキャリア教育が必要である。

○　地域の大人と高校生が一緒になって地域を盛り上げる活動をしている団体を高等学校側にうまく使ってもらえれば、連携方法についての様々なアイデアが出てくるのではないか。

○　希望する全ての子どもが高等学校に通えるような学校配置を望む。

○　学習レベルの維持のためには、ＩＣＴ等をどんどん取り入れて活用していくべきではないか。

○　高校教育改革を進めるに当たって、これまでの地区説明会に加えて、自治体の長への説明も必要になると思う。

【三八地区部会】

１　地区の目指す学校･学科の在り方について

○　地区の産業構造を考えると、農業科、工業科、商業科、水産科は、なくてはならない学科である。

○　生徒数減少で高等学校を無くすることで、経済的事情により高等学校に入れない子どもが出てしまうのではないか。

２　普通科等について

○　中学生の多くは普通科を希望しており、これからの学校・学科を考える際には、生徒・保護者・地域のニーズを大事にしながら計画を進めていく必要がある。

３　職業教育を主とする専門学科について

○　専門高校からも大学に進学する生徒が増えてきており、確かな学力が求められている。

○　全ての専門高校が地域の人材育成に積極的に取り組んでいる。

４　総合学科について

意見なし

５　定時制・通信制について

○　全日制課程とは異なり、定時制課程、通信制課程の高等学校は市部だけに設置されており、郡部から交通費を相当かけて通学しているという状況も念頭に置いておく必要がある。

６　多様な教育制度について

○　連携型中高一貫教育の田子中学校・田子高等学校は、生徒数減少により苦しい状況である。

○　三本木高等学校は附属中学校からの生徒が周囲を引っ張っていくような活躍をしており、難関大学への合格実績も伸ばしている。しかし、拡充については慎重に検討しなければならない。

７　その他

○　遠距離通学をする生徒のために、スクールバスや寄宿舎の整備について検討する必要がある。

○　特別な支援を要する生徒をサポートするために、手厚い人員配置が必要である。

○　小学生や中学生に対して、自分の住む地域にある高等学校での学びについて、情報発信をする必要がある。

○　地域からの意見聴取に当たっては、県教育委員会等の方向性が示されない状態で意見を求めるよりも、ある程度の方向性を示した段階で、意見を伺う方が良い。

○　地域の方々の声を丁寧に聞くということが大事である。

○　教育、福祉、企業、ＮＰＯ等、幅広くいろいろな意見を聞くことが大切である。